基本目標５　生物多様性の保全

① 自然環境の保全と創出

生物多様性を保全するために、様々な自然環境を保護する必要があります。水辺は、市民が自然とふれあう場を創出し、多種多様な生物種の保全に努めます。都市の緑は、まちなかの環境を高める緑を増やし、公園緑地などの緑の質を改善し、高めていくことに取り組みます。森林や農地は、気候変動の緩和や健全な水循環の確保などの多面的な機能を維持できるよう保全に努めます。

②自然との共生

自然環境に関するデータの収集や小牧山など自然とふれあう場と機会の充実に努め、環境保全への関心を深めるとともに、生物多様性の保全への理解を促進します。

環境テーマ	指　標	基準値 平成30年度	目指す方向	進捗状況			達成
				令和２年度	令和３年度	令和４年度	
①自然環境の保全と創出	市民一人あたりの都市公園面積	7.5 ㎡/人	↗	7.6 ㎡/人	7.7 ㎡/人	7.7 ㎡/人	☀
	緑被面積	2,759.9 ha	↗	2,704.3 ha	2,704.3 ha	2,704.3 ha	☂
	市民菜園の利用者数	153 人	↗	168 人	173 人	175 人	☀
	耕作放棄地の面積	62 ha	↘	68 ha	59 ha	65 ha	☂
②自然との共生	自然環境学習（水生生物調査など）の実施校数	10 校	↗	6 校	7 校	7 校	☂

風致の優れた地域の保全　①自然環境の保全と創出

【　施策説明　】

東部に点在するため池などについて、自然や生態系に配慮しつつ、水辺を活かした空間整備を進める。また風致の優れた環境を活かした地域を保全し、市民が自然風景に親しむ場として提供する。

●取り組み・実績

太良まめなしの里の整備事業において、作業集会所や階段テラスの新築整備を実施

（マメナシと太良上池）

水生生物調査　②自然との共生

【　施策説明　】

市内小学生による水生生物調査及び勉強会を実施し、生活排水の問題や河川生物の生息環境について、学ぶ機会を提供する。

●取り組み・実績

市内 3 校で勉強会を実施し、児童 242 人が参加した。

光ヶ丘小学校（6/21、63 人）、米野小学校（7/5、142 人）、大城小学校（9/6、37 人）

市内 3 校で実際に川に入り水生生物調査を実施し、児童 290 人が参加した。

米野小学校（7/14、142 人）、大城小学校（9/14、34 人）、小牧原小学校（10/21、114 人）

（水生生物調査の様子）

その他の取り組み

テーマ	事　業	内　容
①自然環境の保全と創出	緑化に関する補助制度の活用促進	民有地の緑化を進めるため、生垣設置、屋上緑化、空地緑化などを奨励し、補助制度の利用を推進する。 ➢　ＨＰに掲載 ➢　広報・リーフレットによるＰＲを実施
	緑化推進協議会の充実	緑化運動を促進し、緑化意識の高揚を図る。 ➢　年 2 回（6 月、11 月）に花いっぱい運動を実施 ➢　年 2 回（10 月、3 月）に出生記念樹の配布を実施
	身近な公園緑地の整備	公園の計画的な整備と適正な管理を進める。 ➢　樋下公園の整備及び児童遊園の改修
	優良農用地の保全	新たな農業の担い手を確保し、優良農用地の維持保全を進める。 ➢　ＨＰに認定農業者制度の内容を掲載し、ＰＲを実施 ➢　農政課窓口で全国新規就農相談センターが作成した新規就農に関するマニュアルを配布

テーマ	事　業	内　容
①自然環境の保全と創出	市民菜園事業、農業体験事業による農業とのふれあい	市民に農業へ関心を持ってもらえるよう、市民菜園のＰＲと農業体験講座の充実を図る。 ➢ 農業体験講座開催（20 名受講） ➢ ＨＰに市民菜園の情報を掲載
	遊休農地・耕作放棄地の防止・解消	現況調査や遊休農地の意向確認を行い、活用方法を検討する。 ➢ 農業委員会の農地パトロール調査により、遊休農地を早期発見し所有者へ通知 ➢ 小牧市農地情報バンク制度を活用し、耕作のできない所有者に農地を登録してもらい、借り手とのマッチングを図った。
	農業祭の開催	良質安全な農産物の生産技術・生産意欲の向上等、農業振興を図りながら、消費者に対して地元農産物の紹介、消費啓蒙を促すことを目的として農業祭を開催する。 ➢ JA 尾張中央本店で開催（11/18　11/19） ➢ 農産物の品評会及び即売会を 3 回（7 月、8 月、11 月）開催
	外来種の駆除	外来種による農作物の被害を減らせるよう、外来種の駆除を実施する。 ➢ スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の駆除（シルバー人材センター委託） ➢ ヌートリア、アライグマ等の捕獲、駆除の実施（猟友会） ➢ 捕獲檻の設置（市民からの依頼により） ➢ 学校・事業所と連携・協働してオオキンケイギクの駆除を3回実施（自然環境観察人）
②自然との共生	兒の森の活用促進	自然環境保護に関する啓蒙を図り、森の環境を保全するボランティア活動を支援する。 ➢ 兒の森里山体験を実施（23 人参加） ➢ 兒の森クイズラリーを実施（15 人参加） ➢ 森を保全するための整備活動を実施。 ➢ 毎月 1 回自然環境観察人による定期観察会を実施（168 人参加（うち一般参加者 65 人）） （168 人参加（うち一般参加者 65 人））
	自然観察学習	児童クラブにおいて身近な動植物の観察会を実施し、小学生のうちから自然に興味を持ってもらい、環境保全に対する意識の醸成を図る。 ➢ 3 クラブで実施（光ケ丘児童クラブ 8/25　20 人参加、小牧原児童クラブ 8/5　16 人参加、一色児童クラブ 3/28　21 人参加）
	「小牧環境マップ」の充実	自然環境観察人や専門家等から動植物の生育・生息状況に関する情報を収集し、分布状況等をマップの形でＨＰに掲載し、環境保全への関心を深める。 ➢ ＨＰ掲載内容を随時更新
	「小牧の野鳥」の作成	自然環境観察人が小牧市とその周辺で確認することができた野鳥について紹介する冊子を作成した。各市民センター等の市内公共施設に設置するとともにＨＰにも掲載し、自然環境への関心を深められるよう啓発した。

評　価

貴重な水とみどりの環境や原風景を次世代に残すために、住民や関係団体、事業者等が連携し環境の保全と再生に引き続き取り組む必要がある。

子どもたちによる水生生物調査や市民向けの自然観察会については、今後も自然環境や生物多様性の保全への理解を深めるための学習の機会として引き続き開催することが重要である。